

あなたも めざせ！世界遺産登録 参加しませんか？

世界遺産への理解を逗子で 逗子鎌倉の中世遺産を考える会

第1回史跡見学会「神武寺・東昌寺」を紹介した地元紙の記事。東京や千葉からも参加するファンがいる。



平成15年(2003年)6月、逗子に遺された中世の歴史遺産の価値を確かめ、古都鎌倉と一体となった古都逗子の世界遺産登録を呼びかけようと、逗子鎌倉の市民を中心に会が結成されました。

その年11月の発足記念講演会を皮切りに、翌年3月には神武寺・東昌寺の中世遺産を学ぶ等、年1回の講演会と史跡見学会を開催し、市民に世界遺産への理解を広げる活動をしています。また逗子市や神奈川県、国に、逗子への全市的な古都保存法適用を要望しています。

「発足の呼びかけ人代表は、鎌倉市歴史遺産検討委員会委員長だった大三輪龍彦先生です。推進協議会広報部長の内海恒雄先生と二人三脚で、市民に広く呼びかけていただき実現しました。昨年4月の大三輪先生ご講演のあと、ご逝去なされたことは本当に残念ですが、先生のご遺志が一日も早く実現されますよう頑張っています。

どなたでも、ぜひこの会に入って登録推進活動にご参加ください」と、事務局の森淳子さんからの伝言です。

入会希望の方は森淳子さん(電話 & Fax.046-872-9171)までお申し込みください。

貴重な歴史的景観を後世に (財)鎌倉風致保存会



北条氏常盤亭跡で草刈りボランティア

(財)鎌倉風致保存会(以下保存会)は、鶴岡八幡宮後背の山林「御谷」の宅地造成計画に反対した市民や文化人の運動がきっかけとなり、昭和39年(1964年)に設立されました。鎌倉の美しい自然や歴史的景観を守る活動を中心とし、日本最初のナショナルトラスト団体として43年間、緑地の取得、保全・管理や保存建築物の指定等さまざまな活動を展開してきました。

平成10年には時代に即した保存会活動のあり方を研究する「鎌倉風致保存会活動方針等研究委員会」が設置され、今後「鎌倉の世界遺産登録」に向け取り組んでいくことが活動目的にも叶うとして確認されました。

現在、保存会は「鎌倉の世界遺産登録をめざす市民の会」と共催で「鎌倉歴史見学会」を開催したり、推進協議会や、市が主催する国指定史跡保存管理計画策定委員会などに参加・協力しています。また、国指定史跡地や緑地の保全・管理作業(下草刈り・樹木伐採等)を行ない、市内に遺された自然と一体となった貴重な歴史的景観を後世に伝える活動を実施しています。事務局長の小金丸良さんは「こうした活動を支えているのは、市民であり保存会会員の皆さんです。会員数の増加は保存会の基盤強化となり、そのことが鎌倉の世界遺産登録への力となります。一人でも多くの方が会員になっていただけることを切望しています」と話されていました。入会希望の方は保存会事務局 電話0467-23-6621までお申し込みください。

「古都鎌倉の世界遺産登録」って なに？

鎌倉の北条氏に関わる寺院や館跡の配置には、奈良・京都とは異なる特徴がみられます。

鎌倉への出入り口であった切通周辺には、北条氏によって建てられた寺院や館跡があります。大仏切通の外側にあたる北条氏常盤亭跡や亀ヶ谷坂の内側にある浄光明寺、巨福呂坂の外にある円覚寺や建長寺、極楽寺口に位置する極楽寺や仏法寺跡などです。

これらの寺院や館は、普段は信仰の場や地域支配

第4回 武家の古都・鎌倉の特徴は？(後編)

の拠点として存在していました。しかし、有事の際には軍事拠点となることも想定して交通の要衝に建てられたと考えられており、実際に仏法寺付近は新田義貞の鎌倉攻めの際に戦場となりました。

このように「武家の古都・鎌倉」の北条氏に関わる寺院や館の分布には、奈良や京都の古代からある寺院の配置とは異なる、都市防衛の意図が読み取れるのです。